

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら戸田公園教室			
○保護者評価実施期間	2025年10月1日		～	2025年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)	21名
○従業者評価実施期間	2025年10月1日		～	2025年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	14名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	清潔で安心して過ごせる療育環境の整備 当事業所では、保護者評価において「清潔で心地よい環境」との回答を多くいただいております。教室内の衛生管理をご評価いただいております。毎日の清掃を徹底し、環境調整を行うことで、子どもたちが落ち着いて活動できる空間づくりを継続的に行っています。保護者からも「とてもきれい」「安心して預けられる」との意見が寄せられており、環境整備が支援の質向上に寄与していることが明確です。今後も安全・衛生面の向上に努めてまいります。	保護者との密な連携と日々の双方向の情報共有 当事業所では、送迎時の口頭でのフィードバック、連絡帳、HUGアプリによる個別メッセージを活用し、日々お子様の様子を丁寧に共有しています。保護者様からは「毎回の共有が安心できる」「家庭では見られない姿がわかってありがたい」との意見が寄せられています。また、定期的な面談や保護者会を通じて、子育てに関する相談を受ける体制も整えており、家族支援の充実につながっています。今後も家庭との連携を重視し、安心感のある支援体制を維持してまいります。	職員の専門性向上と研修体系の強化 今後は、法定研修に加えて、事業所内での実践的な研修やケース検討会を増やし、専門性の高い支援提供を目指します。特に発達特性への理解やアセスメント技法の向上、家族支援の専門性強化に取り組んでまいります。法人内研修や外部機関の研修も積極的に活用し、支援の質向上につなげていきます。
2	個別支援計画の丁寧な作成と計画に基づく一貫した支援 個別支援計画に関する評価では全体として非常に高い結果となり、「児童発達支援計画に沿った支援が行われている」「ニーズを丁寧に把握してくれる」との意見が多く寄せられました。初回ヒアリングの細やかな実施、6か月ごとのモニタリング、カンファレンスによる関係職員間での情報共有を通して、計画書の精度と支援の統一性を確保しています。保護者からも「段階を踏んだ支援で成長が実感できる」との評価をいただいております。継続的な質の高い支援を提供しています。	職員間の情報共有と支援の統一性の確保 支援開始前後のミーティングを必ず行い、その日の支援内容・役割分担・児童の状態を共有する仕組みを徹底しています。アプリを活用した支援計画書の共有や、週次面談、伝言板を用いた職員間連絡により、支援の一貫性を確保しています。保護者からも「支援内容が統一されている」「どの職員も子どものことを理解している」と評価されており、職員間の協働体制が質の高い支援につながっています。今後も情報共有の強化を継続してまいります。	家族支援プログラムのさらなる充実 保護者会や面談に加え、ペアレントトレーニングやテーマ別勉強会の充実を検討していきます。保護者同士が安心して交流できる場の創出、個別相談の強化、家庭で実践しやすい支援方法の共有などを通して、家族全体の支援体制の向上を目指します。
3	多様で子どもの興味を引き出すプログラム運営 活動プログラムについては、多くの保護者が「毎回異なるプログラムで楽しめる」「室内外の幅広い活動がありがたい」と高く評価しています。担当者を中心としたチームでのプログラム立案、発展的プログラムの導入、季節行事や体験活動の実施など、子どもの主体性を引き出す取り組みを行っています。プール活動や運動プログラムなど、身体機能面にも働きかける活動が好評であり、お子様が楽しみながら成長できる環境づくりに寄与しています。	安全確保に向けた計画的な取り組み 当事業所では、事故防止マニュアル・緊急時対応マニュアル・感染症対応マニュアル等を整備し、定期的な避難訓練やヒヤリハットの共有を実施しています。保護者様からも「小さな怪我でもきちんと共有され安心できる」との声が寄せられており、安全確保への姿勢が高く評価されています。また、食物アレルギー対応や個別の健康情報の確認を徹底し、複数職員での確認体制を整えることで、日々の安全な療育運営に取り組んでいます。	地域連携体制の構築と外部機関連携の促進 今後は、保育園・幼稚園・学校などとの訪問連携に加えて、地域イベントや外部団体との協働の場を増やすことを検討します。地域全体で子どもを支える仕組みづくりを目指し、情報交換会や合同活動の実施など、実現可能な連携方法を模索してまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流機会の不足 保護者評価では、地域や他園との交流機会に関する項目の肯定率が低く、「交流しているか分からない」という意見が寄せられました。自己評価でも地域住民招待や他機関との合同活動が実施できていない点が課題として示されています。子どもが地域の多様な環境に触れ、社会性を育む機会の充実が求められています。	地域交流不足の要因 地域交流の実施が限定的である要因として、運営体制上の人員配置やスケジュール調整の難しさが挙げられます。また、地域イベント情報の把握が十分でないことや、合同活動を企画するための時間的・調整的コストも影響しています。個人情報や安全面の配慮から外部での活動を最小限にしてきた背景もあり、計画的な体制構築が今後必要となります。	改善に必要な取り組み(地域交流の充実) 地域交流を促進するため、地域の保育園・幼稚園・教育機関との定期的な情報交換機会を設けるとともに、可能な範囲での合同活動を実施します。また、地域イベント等の情報を積極的に収集し、参加の可否を検討してまいります。地域社会との関係を深めることで、子どもたちの社会性を育む機会の拡大を図ります。
2	災害対策・緊急時の訓練参加機会の周知不足 避難訓練・緊急対応に関する項目では肯定率が相対的に低く、「全員が訓練に参加しているのか気になる」といった意見がみられました。実施自体は行われていますが、利用日時により参加機会が限定される点や、周知が十分でない点が課題として挙げられます。	災害対策訓練周知不足の要因 避難訓練は年2回実施していますが、利用児童の曜日や時間帯の違いから、訓練に参加できないケースが発生しています。また、実施内容をブログなどで発信しているものの、保護者様が見落としてしまう場合もあり、周知方法の工夫が課題です。全家庭が訓練内容と取り組みを確実に把握できる仕組みづくりが必要です。	改善に必要な取り組み(災害対策の周知強化) 避難訓練の実施情報や内容を、ブログ・アプリ・お便りなど複数の媒体で確実に周知します。参加できない家庭向けには、訓練内容の動画や写真を共有し、全家庭が取り組みを把握できるようにします。また、児童が安全に参加できる機会を増やすため、実施日の周知にも力を入れてまいります。
3	職員間の情報伝達に対する不安の声 保護者様から「送迎時の共有に不安がある」との意見がありました。支援内容や伝達事項は一貫して共有されていますが、繁忙時に情報伝達が十分に伝わらない場合がある点が課題です。確実な共有体制の強化が求められています。	情報伝達に不安が生じる要因 送迎時は時間的制約が大きく、複数児童の入れ替えが重なる場合に情報共有のタイミングが限られることがあります。また、職員交代時に口頭情報が集中し、伝達の漏れや誤解を生む可能性もあります。記録ツールや共有ルールの整備は進んでいますが、運用面での徹底や確認プロセスの強化が必要といえます。	職員間の情報伝達の強化 送迎時の共有内容について、口頭伝達に依存しすぎず、アプリやチェックシートを活用した記録の標準化を進めます。職員交代時の確認手順を明確化し、共有漏れ防止のための仕組みを整えます。時間帯による忙しさの差を考慮し、支援体制の配置見直しも併せて行い、確実な情報伝達を実施します。

○事業所名	こばんはうすさくら戸田公園教室			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		～	2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数)	25名
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		～	2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	13名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	丁寧な個別支援計画の作成と的確な支援実施 個別支援計画に関する項目では、保護者様から「子どもの特性を十分に理解してもらえている」「計画に沿った段階的な支援が実施されている」といった肯定的な意見が多く寄せられ、高い評価が得られました。事業所では初回アセスメントを丁寧にを行い、6か月ごとの見直しとモニタリングを徹底しています。また職員間の引継ぎを円滑に行い、計画に基づいた統一的な支援を実施することで、家庭でも変化を実感できる成果につながっています。	保護者との密な情報共有と相談体制の充実 事業所では送迎時の口頭での共有に加え、連絡帳・アプリを活用して日々の様子を丁寧に伝えています。保護者様からは「細かな情報が分かり安心できる」「悩みを相談しやすい雰囲気がある」との意見が寄せられ、双方向のコミュニケーションが信頼につながっています。また、家庭での様子を積極的に聞き取ることで、支援内容の調整や一貫性の向上につながっています。面談も定期的に実施し、相談しやすい環境を整えています。	職員研修と専門性向上に向けた取り組み 今後は、法人内外の研修参加を強化し、発達支援に関する専門性の向上を目指します。特にアセスメント技術の向上や家族支援スキルの強化に取り組んでいきます。また、ケース検討会や事例共有の場を増やし、職員全体で支援品質の向上に取り組んでまいります。
2	清潔で安心できる療育環境の提供 保護者評価では「教室が常に清潔で気持ちよい」「子どもが安心して過ごせる環境」といった意見が多数あり、環境面への満足度が非常に高い結果となりました。職員は毎日の清掃・消毒・整理整頓を習慣化し、活動の安全性と快適性を維持しています。また、危険箇所の事前点検や室温・動線の調整など細かな環境設定を行うことで、落ち着いた活動できる環境づくりを継続しています。	安全管理と緊急時対応の徹底 日々の活動では、事故防止に向けた環境チェックや、アレルギー対応・怪我対応の手順を複数職員で確認しています。緊急時マニュアルの整備に加え、避難訓練やヒヤリハット共有を継続して行うことで、全職員が共通認識のもと安全な支援を実施しています。保護者様からも「怪我やトラブルの報告が丁寧」「安心して預けられる」との意見があり、安全確保の取り組みが評価されています。	保護者支援と相談体制のさらなる充実 保護者会や個別面談に加え、子育てに関するテーマ別講座やペアレントトレーニングの実施を検討していきます。家庭での取り組みをより支援できる資料配布や動画共有の強化を進め、保護者様が安心して相談できる体制づくりを目指します。
3	多様な活動プログラムによる成長支援 活動プログラムについては、「毎回内容が工夫されている」「子どもが楽しそうに通っている」との意見が多く、特に運動あそび・製作・季節行事など多様な活動が高く評価されています。職員が週ごとに計画を立て、子どもの興味や発達段階に合わせた内容を提供していることが成果につながっています。また、室内外の活動バランスを意識し、楽しさと成長が両立するプログラムを行っています。	職員間の協働による支援の質の向上 支援前後にミーティングを行い、児童の状態共有や役割分担を明確化することで、統一した支援の実施に努めています。また、記録やアプリを用いた情報共有を行い、職員間の連携を強化しています。新入職員へのサポート体制も整っており、経験年数の差に関わらず支援の質を維持できるよう工夫しています。こうした協働体制が、保護者からの「どの職員も丁寧に対応してくれる」という評価につながっています。	活動プログラムの多様化と継続的な見直し 子どもの発達段階や興味に応じたプログラムの開発を進め、楽しみながら成長できる内容の強化を目指します。また、活動後の振り返りを継続し、プログラムの改善を行うことで、より質の高い支援を提供できるよう取り組んでまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流や外部機関連携の不足 地域との交流に関する項目は評価が低く、「どのような交流を行っているのか分からない」との意見が見られました。事業所としても、近隣施設との合同活動や地域住民を招いた交流の機会が十分に確保できていない点を課題として認識しています。子どもの社会性の育成や地域理解の促進の観点から、取り組みの強化が必要です。	地域交流不足の要因 地域交流の取り組みが十分に進んでいない要因として、活動の企画・調整に必要な時間確保が難しいことや、安全面の考慮から外部活動の実施に慎重にならざるを得ない状況があります。また、地域施設との連絡体制や情報収集の不足も要因となっており、交流を体系的に企画する仕組みが十分に整っていない点も課題です。	地域交流の活性化 現時点では事業所の特性上地域施設との交流は検討しておりませんが、地域開催のイベントへの参加など検討してまいります。また、例年開催している展覧会など、関係機関との連携がこれまで以上に活性化できるよう、努めてまいります。
2	災害対策・避難訓練の周知不足 避難訓練に関する保護者評価では「実施内容を知らない」「参加機会が分からない」との意見があり、周知不足が課題となっています。訓練自体は実施しているものの、利用児童の曜日によって参加できないケースが多く、取り組みを十分に伝えられていない現状があります。	災害対策周知不足の要因 避難訓練は複数回実施しているものの、利用曜日が固定している児童は参加できない場合が多く、実施内容が十分に共有されていません。また、訓練報告をアプリや口頭に頼っているため、全家庭へ確実に伝わっていないことも課題です。情報発信の手段が限定的であり、周知方法の統一化が必要です。	災害対策・訓練の周知徹底 避難訓練の実施状況や内容を、アプリ・紙面・掲示物など複数の方法で確実に伝える仕組みを整えます。曜日ごとの訓練実施を検討し、参加機会を増やすことで、保護者様の安心感の向上を図ります。また、訓練結果の報告を統一的に行い、情報の見える化を進めます。
3	職員間の情報伝達に対する不安 保護者様から「伝達が十分でないと感じる場面がある」という意見が寄せられています。繁忙時には口頭での伝達が中心となり、情報の抜けや認識のずれが生じやすい状況です。職員間の情報共有の仕組みをさらに強化する必要があります。	情報伝達の不十分さの要因 送迎の混み合う時間帯では職員が対応に追われ、伝達事項が口頭ベースに偏りやすくなっています。また、記録作業と並行して情報共有を行うため、共有漏れが発生する可能性があります。チェック体制が統一されていない点も課題であり、情報整理の仕組みの改善が求められます。	情報共有体制の強化 送迎時の情報共有を徹底するため、記録と口頭伝達の両面でのチェック体制を整備します。アプリでの共有事項の統一化や、職員間の確認手順の標準化を行い、情報漏れを防止します。また、忙しい時間帯に対応できるよう職員配置を見直し、確実な情報伝達を行います。